

日 時 平成 20 年（2008 年）2 月 19 日（火） 15 時～16 時 30 分
会 場 豊中市教育センター 研修室
出席者 永野委員長 角井委員 臼杵委員 佐渡委員 藤原委員 河村委員 橋本委員
北尾委員 津田委員 大沼委員 島袋委員
十河所長 島野主幹 大屋係長 鈴木係長 尾崎係長 佐藤指導主事 寺田指導主事
欠席者 青柳副委員長 佐保田委員 生駒委員 越桐委員 松浦委員
進 行 尾崎係長
傍聴者 なし
尾崎係長 資料確認

1. 開会の挨拶

2. 案件

（1）本年度の事業中間報告について

- ・ 教育センターの利用状況について
- ・ 研修数、受講者数について
- ・ サタデーサポートについて
- ・ ニューステージ研修 について
- ・ 研修 3 4 5 について
- ・ 冊子「エール・YELL」について
- ・ 今年度の初任者研修について
- ・ ブロック交流研修について
- ・ 教育相談の延べ件数について
- ・ 教育相談総合窓口について
- ・ ジュニアメイト派遣事業について
- ・ 養護学級設置状況、在籍児童・生徒について
- ・ 障害児教育連続研修、特別支援教育コーディネーター研修について
- ・ 校内 LAN 設置状況について
- ・ ネットワーク担当者研修、情報活用研修について
- ・ タッチ・座・サイエンス、サイエンスカフェ、親子理科講座について
- ・ 理科教材研修、理科教育研修について
- ・ 同定会について
- ・ 理科支援員配置事業について

- ・ 理科展、科学教室について
- ・ サイエンスクラブフェスティバルについて

(研究・研修係)

- ・ 授業 (保育) 実践論文について
- ・ ニューステージ研修 について
- ・ 研究協力員および研究協力員報告会について

(教育相談係)

- ・ 教育相談の待機日数の減少について
- ・ 発達相談、サタデー相談について
- ・ 教育相談総合窓口について
- ・ サポート会議について
- ・ 教育相談研修について
- ・ ジュニアメイトの配置について
- ・ 相談内容の多様化、複雑化への対応について

(養護教育係)

- ・ 養護学級設置状況、在籍児童・生徒について
- ・ 介助員の配置状況について
- ・ 医療的ケアについて
- ・ 保護者の多様な要望への対応について
- ・ 巡回相談について

(情報・科学教育係)

- ・ 研修について
- ・ 理科展について
- ・ 理科支援員配置事業について
- ・ 校内LAN設置状況について
- ・ CMSによるホームページ更新システムについて

(2) 次年度に向けて

- ・ サタデーサポートの活用について

(研究・研修係)

- ・ 100人を超える初任者研修について

- ・ 研修の普及（参加への支援）について
- ・ 中核市移行に向けての研修のありかたについて

（情報・科学教育係）

- ・ 教育の情報化の推進について
- ・ 情報リテラシーの向上、情報安全教育について
- ・ 科学教育の振興について

（養護教育係）

- ・ 特別支援教育への対応について
- ・ 業務の多忙化、多様化について
- ・ 巡回相談の持ち方について

（教育相談係）

- ・ 相談の多様化と複雑化について
- ・ 増加する継続ケースについて
- ・ 相談枠の取り方について
- ・ 教育相談総合窓口の充実について

質疑・意見

- ・ サタデーサポートについて、先生方の参加が得られにくいとのことであったが、「ここへ来てもたいしたもののが得られない。」と現場の先生方は思っておられるのではないかと。経験のある先生方はある程度の見識があり、その層の先生方に対応するためには、一流の名人や助言者を招くか、あるいは関心のある大きな問題（学力や教育課程について等）をとりあげるなど工夫が必要である。本市あるいは他府県にも範囲を広げて、有名人でなくてもよいのでよい授業ができる名人等、有効なヒントを与えてくれるような人物を招く。年に1回でもよいので大々的に宣伝して招く。また、所員が今日の教育課題について情報収集に努め、アドバイスを。テーマが不在、なんとなく、困っている人どうぞという漠然としたサポートでは意味がない。テーマをしっかりと決めて、1回でもいいから魅力的なサポートをめざしてほしい。そのための広報もしっかりと行ってほしい。

- ・ LD、ADHDの児童生徒の教育について、豊中市の交流指導学級の歴史は大きなものがある。教育環境を整えるように一層努力してもらいたい。限られた予算を工夫して活用していることと思うが、状況として厳しいことは想像される。さらに工夫して、環境を整えるための予算を確保することを努力してもらいたい。

現場の先生方の状況はかなり厳しいものがある。介助員を増やして教育環境を整えることは、子どもの命を守ることにつながることである。

- ・ 介助員増の努力はしているのか。
財政面に働きかけて、努力しているところである。

- ・ 子ども対応、教職員へのメニューは充実し、常にリニューアルされていると思う。親教育の充実をぜひ検討してほしい。保護者教育は子どもの教育環境を整えることにつながるもので、大切である。厚生労働省は多少の援助を出したり、国も認知しつつあるようである。今後の課題として、保護者にむけての教育プログラムをぜひ検討してほしい。

教職員研修、市民公開講座、サイエンスクラブフェスティバル等で保護者にも認知してもらおう機会としている。

- ・ サイエンスクラブフェスティバルの集まりがよい。家庭教育講座に切り替えるのも一案である。学校以外に家庭のサポートをする役割を担ってほしい。

- ・ 近頃は、教育委員会の委員に保護者を入れる流れがある。豊中市としてはその流れはあるのか。保護者の意見を取り入れていく場を検討中である。

- ・ 親教育、保護者教育の必要がでてきている。親教育、保護者教育については教育センター単独で実施するのは難しい。子ども家庭センター等関係機関との連携を試みることや、サイエンスクラブフェスティバルの活用、またすでに連Pに説明したという報告もあったが、そのような場もおおいに活用してほしい。教育センターは、生涯学習への支援の役割も大切にしてほしい。また、教育相談についての取り組みが長いこともいかして、保護者への啓発活動を行ってほしい。

eひろばも保護者啓発の一助とされているようである。

- ・ eひろばはよい内容であると思う。指導が終わった時、保護者が校長室から笑顔で出ることができるのは大切であると考えている。保護者への教育は難しい。参観や懇談を実施しても、残ってくださるのは意識の高い保護者である。泉丘小校区では、地域や公民分館等積極的な活動が見られる。子どもを地域に返していく、地域と連携して子どもを育てるという発想は大切なのではないか。

- ・ 地域教育振興課とも連携し、事業をすすめてほしい。

- ・ 地域教育協議会等が実施する子育て講座などは、1回限りで実施される傾向が強い。もっと完成度の高いマネジメント的なものを教育センターで実施してほしい。公民館等でも子育て支援講座はあるが、親教育として一貫性、連続性のあるものを望みたい。現場の先生方のたいへんさを痛切に感じるので、先生方が救われるように親を育ててほしい。重度の問題を抱える家庭については個別の対応でよいが、家庭の中でそんなに困っているわけではないという親への支援を検討してほしい。スキルを学ぶことで、子どもの育ちについて考える視点を得たり、社会的基盤の伝え方を学ぶことはできると思う。スキルを学べるものを検討してほしい。子どもがどの発達段階にいても親は困っているものである。ぜひ一貫性のある教育プログラムを検討してほしい。公民館や幼稚園なら親も行きやすいと思うので、タイアップ的なものも有効であると思う。

- ・ 行政の各課には、全体をコーディネートすることが求められていると思う。ぜひそれぞれの責任者同士が相談し、実施してほしい。
- ・ 特別支援教育の「個別の指導計画」「コーディネーター研修」の積み重ねが生きてくる。地道な積み重ねを大切にしてほしい。
- ・ 幼稚園の取り組みとして、保護者を巻き込んで実施することが増えてきている。しかし、参加者が少ない現状がある。幼稚園児を持つ保護者をうまく巻き込んで取り組みが進められるとよいと思う。何か取り組みをしても品評会的になってしまうことが残念である。ぜひどこかがコーディネーター的な役割を担ってもらえるとありがたい。
- ・ いろいろな意味で行政の各部署が連動できていないことを感じる。eひろばは確かに心にとまるものである。継続を心がけてほしい。
- ・ 巡回相談の件についてであるが、1回だけ指導してもらってもなかなか日常にはいかせない。また、お願いしても希望の日にちと合わないこともある。難しいことではあると思うが、できるだけ希望にそった対応をお願いしたい。
- ・ 運営委員会での事業報告については、プリントに載っていることを繰り返さなくてよい。工夫をしてもらいたい。
- ・ 学校での教師による教育相談の初期対応について、いろいろな専門家の意見を聞くことに意義があると思う。その視点から考えると、教育相談研修について、2回の実施では回数が少なく、また幼小中それぞれの先生方をまとめて受講対象としているが、分けて実施する必要もあるのではないか。近頃の心療内科は患者であふれている。学校現場では、少し経験があればある程度は対応はできるのだが、もっと厚く対応できるように支援をしてもらいたい。
- ・ それぞれの係、また教育センター全体に対して貴重な提言があった。次年度に取り組めるものから早速始めていただき、現場の先生方が元気になるための支援をめざしていただきたい。

2. 閉会